

水稲中生の晩、強稈、良食味系統 「ちくし43号」の育成

農産研究所

1 背景、目的

本県の良質米安定生産にとって、水稲の早晩性を組み合わせたバランスの良い品種構成を図ることが重要です。そのためには、成熟期が「ヒノヒカリ」より7日～10日程度遅い中生の晩の品種が不可欠です。現在、中生の晩の品種として「ツクシホマレ」や「ニシホマレ」が栽培されていますが、その用途は酒造用一般米に限られ、この熟期の良食味品種の育成が強く要望されていました。

そこで、成熟期が中生の晩で、栽培しやすい、良食味系統を育成しました。

2 成果の内容、特徴

「ちくし43号」は、平成3年に良食味の「ヒノヒカリ」を母、いもち病に強い「葵の風」を父として交配した組合せから誕生しました。

「ヒノヒカリ」と比較した特性は以下のとおりです。

- 1) 出穂期は3日程度、成熟期は8日程度、いずれも遅い。
- 2) 稈長はやや短く、穂長はやや長く、穂数はやや少ない偏穂重型。
- 3) 倒伏には強い。
- 4) いもち病にはやや強い。
- 5) 収量性と検査等級はともにやや優れている。
- 6) 千粒重はやや軽い。
- 7) 炊飯米の光沢と味が良く、粘りが強く、食味はやや優れている。

3 主要なデータなど

表1 「ちくし43号」の生育および収量

系統名	成 稈 穂 倒 穂い 収 同左 千 検査	熟 期	長	数	伏	もち	量	標準 比率	粒 重	等級
品種名	月.日	cm	本/m ²			kg/a	%	g		
ちくし43号	10.11	83	336	0.1	0.2	59.0	99	21.0	2.1	
ヒノヒカリ	10. 5	85	352	1.1	0.6	59.8	100	23.0	2.9	

注) 平成9～13年の平均値(農産研究所)。

移植期: 6月11日～16日。

穂いもち、倒伏: 0(無)～5(甚)。検査等級: 1(1等の上)～6(2等の下)。

県内の延べ24か所における収量の平均値は「ちくし43号」が60.8kg/a、「ヒノヒカリ」が57.4kg/a。

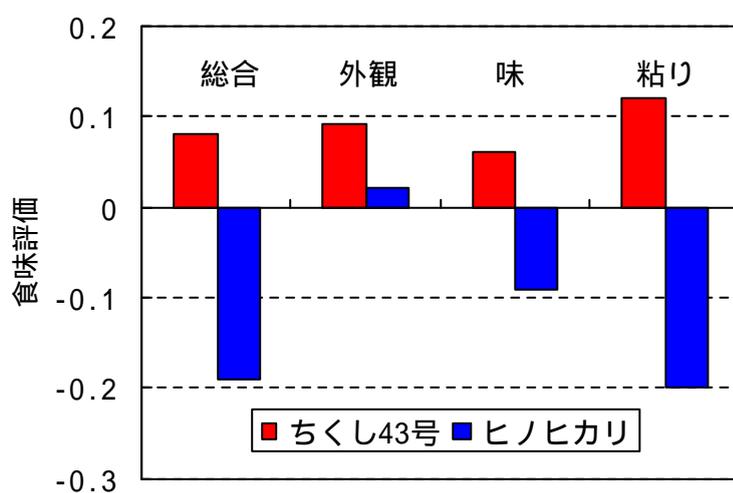


図1 「ちくし43号」の食味

注) 平成9～12年農産研究所の平均値。

基準米(0.00)は「コシヒカリ」。

値が大きいほど優れる。



写真1 「ちくし43号」の株標本